

昭和54年度 学生生活の実態調査

昭和54年度「学生生活実態調査」の結果が、本報に掲載された。この調査は、昭和54年度に在籍した学生を対象に、その生活実態を把握し、今後の学生生活の改善に資することを目的として実施された。調査結果は、概略として、学生生活の充実感、学業の進捗、課外活動の参加状況、アルバイトの状況、家族関係の円滑化などについて、学生生活の充実感や学業の進捗は、前年度に比べてやや低下している。一方、課外活動の参加状況やアルバイトの状況は、前年度に比べて向上している。家族関係の円滑化については、前年度に比べてやや低下している。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。

調査の概要

貴重な基礎資料 適切な修学、厚生福祉に

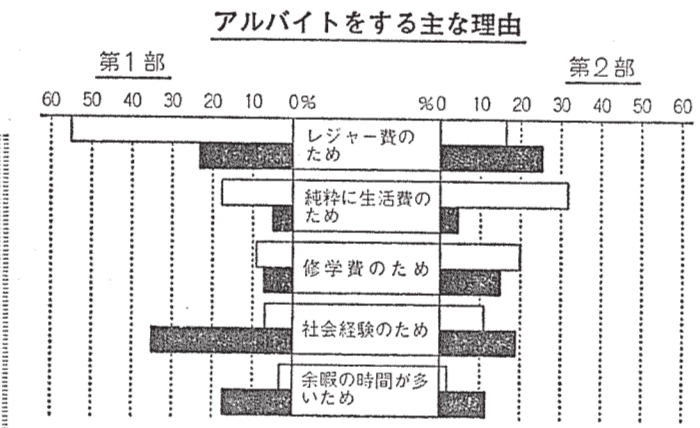
調査の目的は、この調査の目的は、大学生の生活実態を把握し、今後の学生生活の改善に資することを目的として実施された。調査の結果は、概略として、学生生活の充実感、学業の進捗、課外活動の参加状況、アルバイトの状況、家族関係の円滑化などについて、学生生活の充実感や学業の進捗は、前年度に比べてやや低下している。一方、課外活動の参加状況やアルバイトの状況は、前年度に比べて向上している。家族関係の円滑化については、前年度に比べてやや低下している。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



学生生活実態調査の結果を報告する学生たち

友人・交際・連帯感… クラブ同好会で得たもの

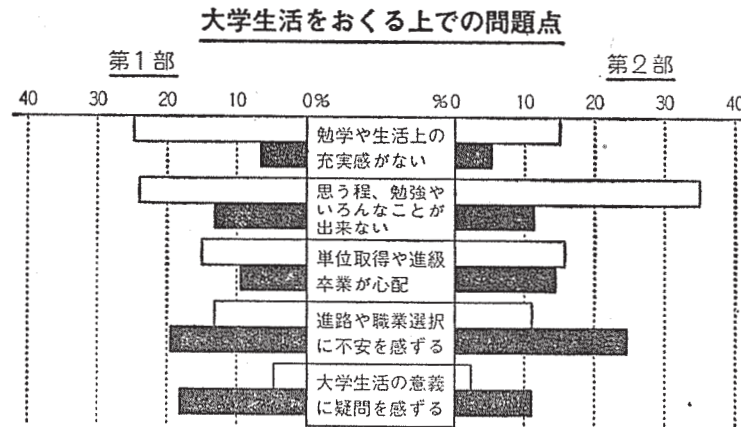
友人・交際・連帯感…クラブ同好会で得たもの。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。友人・交際・連帯感…クラブ同好会で得たもの。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



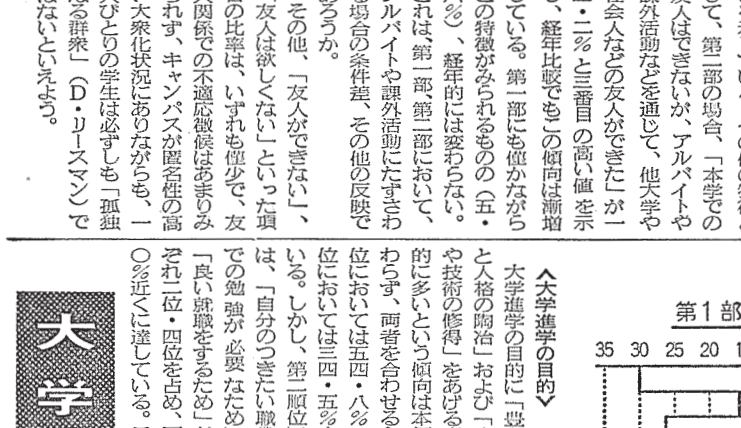
アルバイトをする主な理由。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。アルバイトをする主な理由。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。

家庭への依存低下 アルバイトは増加傾向

家庭への依存低下。アルバイトは増加傾向。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。家庭への依存低下。アルバイトは増加傾向。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



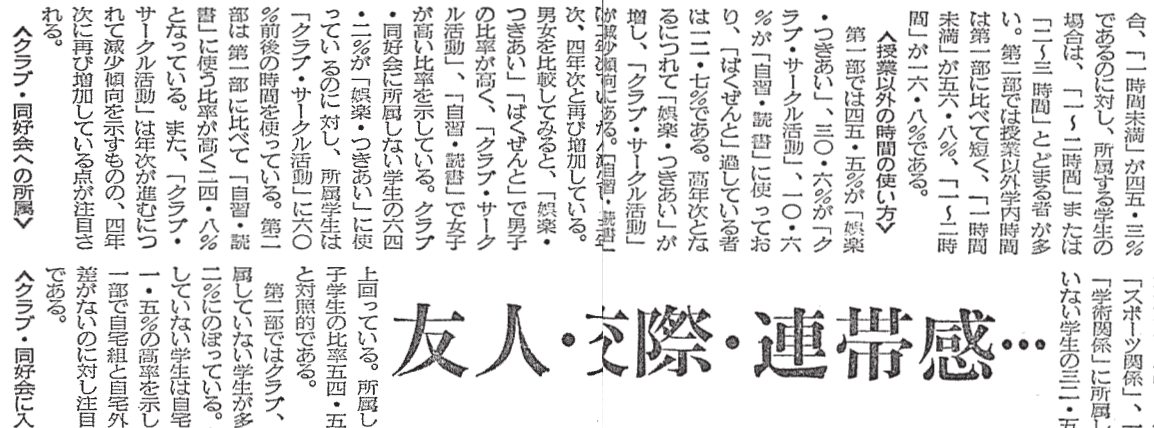
大学生活をおくる上での問題点。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。大学生活をおくる上での問題点。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



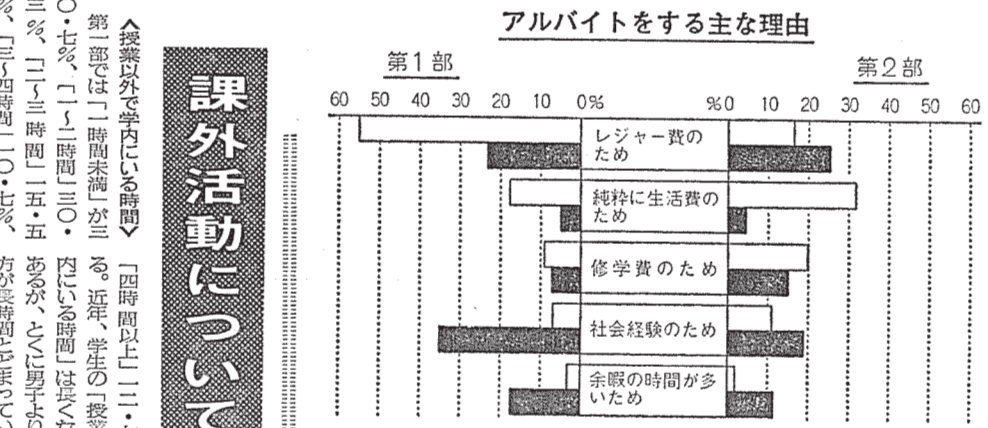
課外活動について。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。課外活動について。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。

約半数が「充実感ない」 進級や職業選択にも不安

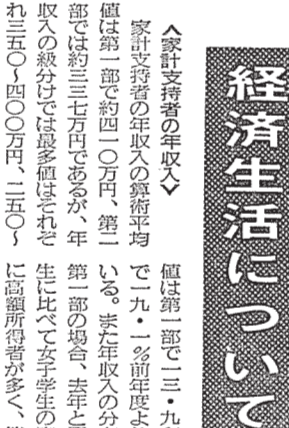
約半数が「充実感ない」。進級や職業選択にも不安。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。約半数が「充実感ない」。進級や職業選択にも不安。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



クラブ・同好会に入った動機。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。クラブ・同好会に入った動機。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



授業への出席状況。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。授業への出席状況。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。



大学進学について。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。大学進学について。この調査結果は、今後の学生生活の改善に資する重要な基礎資料となる。

たのめであつた。先生は耳聾く
ほて傲然とあつた。先生「魚
皮」といふ漢で漢を物した
の漢に苦心を要することであ
つた。そんな時、例をおあげな
さい。「中興の辭、白話とぢや、
さういふ程ではない、さうい
ふのと、微かな字の、漢を指
摘されるのであつた。また、隨
ては説書、それと、獨り靜にじ
や外へ行かれたら、然る足
る休みの持たせ、健勝は足
る。文藝史は定
年のハズスターして、あの疲
道が隨に上の方、先の方
にはハズスターして、夏
からは、季節の華麗、學内
を觀望された先生の御お姿想
い出す。先生の御役「學院
長」を、課長の御役「院長」
をお祈り申し上げる次第であ
る。(文部卿談)

4. 貸付金利息	13,000	10,600	400
5. 施設設備利用料	15,000	14,850	150
6. 貸付金利息	0	0	0
7. 事業収入	63,000	83,388	△ 398
8. 補助収入	47,000	47,398	△ 398
9. 雑収入	16,000	16,000	0
10. 雑収入	61,000	61,141	△ 141
11. 雑収入	61,000	61,141	△ 141
12. 雑収入	13,201,451	11,785,636	1,505,815
13. 雑収入	△ 1,831,201	△ 1,269,679	△ 561,522
14. 雑収入	△ 1,740,148	△ 1,195,569	△ 544,579
15. 雑収入	△ 9,153	△ 70,110	△ 210,43
16. 雑収入	11,460,150	10,515,957	944,193

1. 人件費	8,848,229	8,338,702	509,527
2. 人件費	542,769	500,095	42,674
3. 人件費	277,756	260,959	16,796
4. 人件費	4,283	4,271	12
5. 人件費	21,794	10,476	11,318
6. 人件費	38,226	58,043	△ 19,816
7. 人件費	279,446	251,746	27,699
8. 人件費	16,176	14,321	1,855
9. 人件費	58,603	55,653	2,950
10. 人件費	15,704	13,654	2,050
11. 人件費	1,397	1,277	120
12. 人件費	47,100	46,344	756
13. 人件費	24,881	18,473	6,408
14. 人件費	6,379	794	5,585
15. 人件費	45,370	42,883	2,487
16. 人件費	43,454	42,550	904
17. 人件費	7,430	10,16	△ 2,736
18. 人件費	8,702	8,690	12
19. 人件費	13,975	28,892	△ 14,917
20. 人件費	9,735	9,297	438
21. 人件費	464	1,872	△ 1,408
22. 人件費	2,310	2,109	201
23. 人件費	3,854	3,205	649
24. 人件費	7,905	7,645	260
25. 人件費	27,038	23,559	3,479
26. 人件費	28,137	22,939	5,198
27. 人件費	525,642	448,174	77,468
28. 人件費	25,890	22,550	3,340
29. 人件費	11,981	14,696	△ 2,715
30. 人件費	2,903	1,805	1,098
31. 人件費	4,361	3,810	551
32. 人件費	57,632	30,287	27,345
33. 人件費	261	208	53
34. 人件費	10,917	13,436	△ 2,519
35. 人件費	37,205	26,864	10,341
36. 人件費	45,257	40,860	4,397
37. 人件費	26,267	26,756	△ 489
38. 人件費	40,153	42,102	△ 1,949
39. 人件費	200	200	0
40. 人件費	1,125	1,068	57
41. 人件費	107,359	87,646	19,713
42. 人件費	6,639	7,761	△ 1,122
43. 人件費	4,402	3,681	721
44. 人件費	9,159	8,262	897
45. 人件費	1,602	1,447	155
46. 人件費	13,000	13,000	0
47. 人件費	300,000	286,50	13,500
48. 人件費	9,380	9,570	△ 190
49. 人件費	173,275	166,513	6,762
50. 人件費	173,275	166,513	6,762
51. 人件費	58,658	7,980	50,678
52. 人件費	58,658	7,980	50,678
53. 人件費	0	0	0
54. 人件費	0	0	0
55. 人件費	70,000	70,000	0
56. 人件費	12,470,185	11,548,655	921,530
57. 人件費	5,010,035	1,032,898	△ 3,977,137
58. 人件費	14,396,01	40,6703	1,032,898
59. 人件費	24,456,36	14,396,01	10,060,35

学校法人関西大学 昭和55年度の予算

昭和五十五年は、昭和五十四年度に引き続き、経済成長のペースが鈍化し、物価の暴落が続いた。学校法人としては、この厳しい環境の中で、教育の質を維持し、学生の生活を支えることが最大の課題である。本年度の予算は、この課題を踏まえ、慎重に編成された。

本年度の予算は、前年度に比べて、収入は増加しているが、支出も増加している。特に、人件費の増加が顕著である。これは、教員の給与改定や、事務職員の増員によるものである。また、施設設備の更新や、教材の購入など、固定費の増加も懸念される。

しかし、一方で、奨学金制度の充実や、学生生活支援の強化など、教育の質を高めるための支出も計画されている。学校法人としては、短期的な利益よりも、長期的な教育の発展を重視し、学生に最高の教育を提供する決意を固めている。

予算編成方針

本年度の予算編成は、以下の方針に基づいて行われた。

- ① 教育の質の維持と向上：教員の待遇の向上と、最新の教材・設備の導入を優先する。
- ② 学生の生活支援：奨学金制度の拡充と、学生生活費の補助を強化する。
- ③ 財政の健全化：無駄な支出の削減と、収入の多角化を図る。
- ④ 施設の整備：老朽化した施設の更新と、安全対策の徹底を図る。

資金収支計算書

本年度の資金収支は、前年度に比べて、収入は増加しているが、支出も増加している。特に、人件費の増加が顕著である。これは、教員の給与改定や、事務職員の増員によるものである。また、施設設備の更新や、教材の購入など、固定費の増加も懸念される。

しかし、一方で、奨学金制度の充実や、学生生活支援の強化など、教育の質を高めるための支出も計画されている。学校法人としては、短期的な利益よりも、長期的な教育の発展を重視し、学生に最高の教育を提供する決意を固めている。

消費収支計算書

本年度の消費収支は、前年度に比べて、収入は増加しているが、支出も増加している。特に、人件費の増加が顕著である。これは、教員の給与改定や、事務職員の増員によるものである。また、施設設備の更新や、教材の購入など、固定費の増加も懸念される。

しかし、一方で、奨学金制度の充実や、学生生活支援の強化など、教育の質を高めるための支出も計画されている。学校法人としては、短期的な利益よりも、長期的な教育の発展を重視し、学生に最高の教育を提供する決意を固めている。

矢口文庫の一面

矢口文庫は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の代表作である『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊を収録している。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

新刊紹介

矢口龍雄氏の『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊が、矢口文庫として出版された。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

編集後記

本書は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

学校法人関西大学 昭和55年度の予算

昭和五十五年は、昭和五十四年度に引き続き、経済成長のペースが鈍化し、物価の暴落が続いた。学校法人としては、この厳しい環境の中で、教育の質を維持し、学生の生活を支えることが最大の課題である。本年度の予算は、この課題を踏まえ、慎重に編成された。

本年度の予算は、前年度に比べて、収入は増加しているが、支出も増加している。特に、人件費の増加が顕著である。これは、教員の給与改定や、事務職員の増員によるものである。また、施設設備の更新や、教材の購入など、固定費の増加も懸念される。

しかし、一方で、奨学金制度の充実や、学生生活支援の強化など、教育の質を高めるための支出も計画されている。学校法人としては、短期的な利益よりも、長期的な教育の発展を重視し、学生に最高の教育を提供する決意を固めている。

予算編成方針

本年度の予算編成は、以下の方針に基づいて行われた。

- ① 教育の質の維持と向上：教員の待遇の向上と、最新の教材・設備の導入を優先する。
- ② 学生の生活支援：奨学金制度の拡充と、学生生活費の補助を強化する。
- ③ 財政の健全化：無駄な支出の削減と、収入の多角化を図る。
- ④ 施設の整備：老朽化した施設の更新と、安全対策の徹底を図る。

資金収支計算書

本年度の資金収支は、前年度に比べて、収入は増加しているが、支出も増加している。特に、人件費の増加が顕著である。これは、教員の給与改定や、事務職員の増員によるものである。また、施設設備の更新や、教材の購入など、固定費の増加も懸念される。

しかし、一方で、奨学金制度の充実や、学生生活支援の強化など、教育の質を高めるための支出も計画されている。学校法人としては、短期的な利益よりも、長期的な教育の発展を重視し、学生に最高の教育を提供する決意を固めている。

消費収支計算書

本年度の消費収支は、前年度に比べて、収入は増加しているが、支出も増加している。特に、人件費の増加が顕著である。これは、教員の給与改定や、事務職員の増員によるものである。また、施設設備の更新や、教材の購入など、固定費の増加も懸念される。

しかし、一方で、奨学金制度の充実や、学生生活支援の強化など、教育の質を高めるための支出も計画されている。学校法人としては、短期的な利益よりも、長期的な教育の発展を重視し、学生に最高の教育を提供する決意を固めている。

矢口文庫の一面

矢口文庫は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の代表作である『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊を収録している。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

新刊紹介

矢口龍雄氏の『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊が、矢口文庫として出版された。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

編集後記

本書は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

矢口文庫の一面

矢口文庫は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の代表作である『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊を収録している。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

新刊紹介

矢口龍雄氏の『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊が、矢口文庫として出版された。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

編集後記

本書は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

矢口文庫の一面

矢口文庫は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の代表作である『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊を収録している。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

新刊紹介

矢口龍雄氏の『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊が、矢口文庫として出版された。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

編集後記

本書は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

矢口文庫の一面

矢口文庫は、矢口龍雄氏の著作集である。本書は、矢口氏の代表作である『青春の門』、『青春の扉』、『青春の窓』の三冊を収録している。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。本書は、矢口氏の文学的才能と、社会に対する鋭い批判精神が、生々しく描かれている。

資金収支計算書

昭和55年 4月 1日から
昭和56年 3月31日まで

収入の部			
科 目	55年度予算	54年度予算	増 減
1. 学生生徒等納付金収入	8,340,188	7,081,475	1,258,713
1. 授業料収入	5,436,919	5,010,135	426,784
2. 入学金収入	1,806,850	1,160,215	646,635
3. 実験・実習料収入	245,055	259,520	△ 14,465
4. 補導厚生費収入	0	0	0
5. 維持拡充資金収入	851,364	651,605	199,759
2. 手数料収入	1,376,870	1,423,880	△ 46,990
1. 入学検定料収入	1,369,520	1,416,510	△ 46,990
2. 返考料収入	544	536	8
3. 再入学金収入	688	731	△ 43
4. 試験料収入	455	413	42
5. 証明手数料収入	5,254	5,298	△ 44
6. その他の手数料収入	409	372	37
3. 寄付金収入	100,000	102,650	△ 2,650
1. 特別寄付金収入	100,000	102,650	△ 2,650
2. 一般寄付金収入	0	0	0
4. 補助金収入	2,883,240	2,572,118	116,124
1. 国庫補助金収入	2,490,240	2,368,700	121,540
2. 地方公共団体補助金収入	198,000	203,416	△ 5,416
5. 資産運用収入	657,153	474,998	182,157
1. 特定基本金引当特定資産運用収入	155,153	121,110	34,043
2. その他の特定資産運用収入	315,000	212,000	103,000
3. 受取利息・配当金収入	161,000	116,436	44,564
4. 貸付金利息収入	11,000	10,500	400
5. 施設設備利用料収入	15,000	14,550	150
6. 資産売却収入	0	1,400	△ 1,400
1. 固定資産売却収入	0	1,400	△ 1,400
2. 有価証券売却収入	0	0	0
7. 事業収入	83,000	83,398	△ 398
1. 補助活動収入	47,000	47,398	△ 398
2. 付随事業収入	16,000	16,000	0
8. 雑収入	61,000	61,141	△ 141
1. 雑収入	61,000	61,141	△ 141
9. 借入金等収入	2,400,000	1,615,100	784,900
1. 長期借入金収入	750,000	670,000	80,000
2. 短期借入金収入	1,500,000	800,000	700,000
3. 学校債収入	150,000	145,100	4,900
10. 前受金収入	2,949,300	2,793,325	55,975
1. 授業料前受金収入	833,500	801,620	31,880
2. 入学金前受金収入	1,822,150	1,806,850	15,300
3. 実験・実習料前受金収入	31,485	296,777	1,808
4. 維持拡充資金前受金収入	162,165	155,178	6,987
5. その他の前受金収入	0	0	0
11. その他の収入	219,925	338,402	△ 118,477
1. 特定基本金引当特定資産からの収入	0	0	0
2. その他の特定資産からの収入	0	87,068	△ 87,068
3. 貸付金収入	59,000	45,000	14,000
4. 前期末未収入金収入	49,425	90,972	△ 41,547
5. 預り金収入	102,000	102,000	0
6. 前期末受取手形収入	1,500	2,497	△ 997
7. その他の収入	5,000	108,655	△ 103,655
12. 資金収入調整勘定	△ 2,844,825	△ 1,821,350	△ 1,023,475
1. 期末未収入金	△ 50,000	△ 49,425	△ 575
2. 前期末前受金	△ 2,793,325	△ 1,770,425	△ 1,022,900
3. 期末受取手形	△ 1,500	△ 1,500	0
13. 前年度繰越支払資金	2,879,858	2,217,597	662,259
収入の部合計	18,787,707	16,924,110	1,863,597
支出の部			
科 目	55年度予算	54年度予算	増 減
1. 人件費支出	8,530,523	7,758,568	771,955
1. 教員人件費支出	5,427,692	5,001,095	426,597
2. 職員人件費支出	2,777,564	2,609,596	167,968
3. 役員報酬支出	4,2803	4,2791	12
4. 退職金支出	282,464	105,086	177,378
2. 教育研究経費支出	2,340,780	2,088,593	252,187
1. 旅費交通費支出	161,762	143,221	18,541
2. 消耗品費支出	503,083	556,553	△ 53,470
3. 印刷費支出	157,014	156,564	450
4. 製本費支出	13,977	12,767	1,210
5. 通信運搬費支出	47,100	46,344	756
6. 光熱水費支出	248,881	184,730	64,151
7. 補助費支出	86,379	79,946	6,433
8. 広告費支出	610	791	△ 181
9. 修繕費支出	432,454	425,850	6,604
10. 除却費支出	743,300	1,016	733,114
11. 保険料支出	8702	8,690	12
12. 業務委託費支出	319,675	288,932	30,743
13. 賃借料支出	97,355	92,970	4,385
14. 租税公課支出	464	1,872	△ 1,408
15. 諸会費支出	2310	2,109	201
16. 支払手数料・報酬支出	38,584	32,095	6,489
17. 交際費支出	7,905	7,645	260

18. 会議費支出	27,038	23,559	3,479
19. 雑費支出	28,137	22,939	5,198
3. 管理経費支出	499,275	421,418	77,857
1. 旅費交通費支出	25,890	22,550	3,340
2. 福利厚生費支出	11,981	14,696	△ 2,715
3. 年金支出	29,037	18,055	10,982
4. 消耗品費支出	4,351	3,810	541
5. 印刷費支出	5,732	30,287	△ 24,555
6. 製本費支出	261	208	53
7. 通信運搬費支出	10,917	13,436	△ 2,519
8. 光熱水費支出	37,205	26,864	10,341
9. 広告費支出	4,527	4,080	447
10. 修繕費支出	40,153	42,102	△ 1,949
11. 除却費支出	200	200	0
12. 保険料支出	1,125	1,068	57
13. 業務委託費支出	107,359	87,546	19,813
14. 賃借料支出	6,639	7,761	△ 1,122
15. 租税公課支出	4,402	3,681	721
16. 諸会費支出	9,159	8,262	897
17. 支払手数料・報酬支出	16,027	14,417	1,610
18. 交際費支出	13,000	13,000	0
19. 会議費支出	30,000	28,650	1,350
20. 雑費支出	9,380	9,570	△ 190
4. 借入金等利息支出	173,275	166,513	6,762
1. 借入金利息支出	173,275	166,513	6,762
5. 借入金等返済支出	1,091,710	810,810	280,900
1. 借入金返済支出	957,510	464,610	492,900
2. 学校債返済支出	134,100	146,000	△ 11,900
6. 施設関係支出	917,184	922,313	△ 5,129
1. 土地支出	0	50,000	△ 50,000
2. 建物支出	465,064	205,000	260,064
3. 構築物支出	443,100	41,800	391,300
4. 建設仮勘定支出	9,000	85,913	△ 76,913
7. 設備関係支出	789,021	405,718	383,303
1. 教育研究用機器備品支出	590,703	270,884	319,819
2. その他の機器備品支出	13,532	7,860	5,672
3. 図書支出	163,283	122,910	40,373
4. 車輛支出	700	5,762	△ 5,062
5. 電話加入権支出	803	0	803
8. 資産運用支出	1,108,859	1,150,244	△ 41,385
1. 特定基本金引当特定資産への貸入支出	9,153	70,110	△ 60,957
2. その他の特定資産への貸入支出	1,017,706	1,080,134	△ 62,428
3. 有価証券購入支出	0	0	0
9. その他の支出	582,200	884,417	△ 302,217
1. 貸付金支出	204,200	168,000	36,200
2. 前期末未払金支出	200,000	315,824	△ 115,824
3. 預り金支出	102,000	124,593	△ 22,593
4. 前払金支出	69,000	69,000	0
5. 貯蔵品支出	2,000	2,000	0
6. その他の支出	5,000	5,000	0
10. 予備費	100,000	100,000	0
11. 資金支出調整勘定	△ 271,000	△ 264,138	△ 6,862
1. 期末未払金	△ 200,000	△ 200,000	0
2. 前期末前払金	△ 69,000	△ 62,986	△ 6,014
3. 前期末貯蔵品	△ 2,000	△ 1,152	△ 848
12. 次年度繰越支払資金	2,945,920	2,879,858	66,062
支出の部合計	18,787,707	16,924,110	1,863,597

消費収支計算書

昭和55年 4月 1日から
昭和56年 3月31日まで

消費収入の部			
科 目	55年度予算	54年度予算	増 減
1. 学生生徒等納付金	8,340,188	7,081,475	1,258,713
1. 授業料	5,436,919	5,010,135	426,784
2. 入学金	1,806,850	1,160,215	646,635
3. 実験・実習料	245,055	259,520	△ 14,465
4. 補導厚生費	0	0	0
5. 維持拡充資金	851,364	651,605	199,759
2. 手数料	1,376,870	1,423,880	△ 46,990
1. 入学検定料	1,369,520	1,416,510	△ 46,990
2. 返考料	544	536	8
3. 再入学金	688	731	△ 43
4. 試験料	455	413	42
5. 証明手数料	5,254	5,298	△ 44
6. その他の手数料	409	372	37
3. 寄付金	100,000	102,650	△ 2,650
1. 特別寄付金	100,000	102,650	△ 2,650
2. 一般寄付金	0	0	0
3. 有価証券寄付金	5,000	6,000	△ 1,000
4. 補助金	2,883,240	2,572,118	116,124
1. 国庫補助金	2,490,240	2,368,700	121,540
2. 地方公共団体補助金	198,000	203,416	△ 5,416
5. 資産運用収入	657,153	474,998	182,157
1. 特定基本金引当特定資産運用収入	155,153	121,110	34,043
2. その他の特定資産運用収入	315,000	212,000	103,000
3. 受取利息・配当金	161,000	116,436	44,564

昭和55年度予算書

学校法人 関西大学